

こたまコラム (矢作新報社への寄稿内容)

迎春 希望に満ち溢れた新年をお迎えの事と、心からお慶び申し上げます。

第2次安倍内閣が発足し一年が経過いたしました。去年はアベノミクス効果による円安等により輸出が持ち直し、消費税率引上げに伴う駆け込み需要も相まって、景気は緩やかな回復を果しました。

この傾向は消費税が引き上がる本年3月末までは持続すると思われませんが、4月以降の景気は非常に不透明であると同時に、アベノミクス効果は輸出産業をはじめとした一部業種や地域に限定的であり、再び格差拡大が懸念されております。

特に格差拡大の観点で言えば、労働法制に関する議論が国において行われていますが、現在、失業率は低位で推移しているものの、その実態は非正規雇用者が増加したのみで、必ずしも正規雇用が拡大した訳ではなく、更には労働規制緩和の名のもとに、派遣労働者はずっと派遣で働き続ける仕組み作りを模索するなど、労働環境の更なる悪化を引き起こす可能性があり、注視していく必要があります。

一方で、地域間格差の是正に向けて、昨年末に政府与党が決定した来年度税制改正大綱では、地方自治体の基幹財源の一つである法人住民税の一部を国税化し、交付税原資とする事が決定されましたが、こうした結論は地方の自主的努力を阻害し、地方分権の流れに逆行するものであり、到底受け入れることは出来ません。

従って、今回の労働規制緩和や地方税制のみならず、常に勤労者・納税者・生活者の視点に立った活動・提言に努めてまいりますので、引き続きのご指導をお願い申し上げますと共に、本年が皆様にとって飛躍の年となるようご祈念申し上げ、新年の挨拶に代えさせていただきます。



愛知県議会議員

こたま よしかず
樹神 義和

